

Contents

- ・ 工業部会長、建設部会長、商業部会長、女性部長挨拶
- ・ 青年部コーナー
- ・ 経営 One Point ・ 会員紹介
- ・ お知らせ（今後の予定）

工業部会・建設部会・商業部会・女性部

平成30年5月の通常総会で役員が改選されました。3部会長（工業・建設・商業）と女性部長が新しくなりましたので、ご挨拶をいただきました。

工業部会 工業製品をものづくりする意味とは何か

町内の工業(製造業者)は一貫して同じ工業製品を制作していません。多種多様な部品づくりをしていて、納入先であるお客様も同じ所もなく独自の技術提供をしています。そこで、私どもの工業製品づくりの原点はどこにあるのでしょうか？

よく耳にする言葉が私生活(賃金)の為に働くとよく聞きます。もちろん間違っていないかもしれませんがその前に大切なことが社会貢献であり、人間社会の不自由のない安定した生活が送れるようにする事が我々に課せられた義務であり必要な商品を送り出すことが使命です。また、各社の技術で作りに上げた製品を会社の作品として社会へ送り出す事も重要です。

昭和の高度成長期には一家に一台、冷蔵庫・洗濯機・テレビ・車などが生活に必要であったので先輩方は懸命にものづくりをして今の社会を作り上げた事を忘れてはいけませんし、これこそがものづくりワールドの原点で、私たちも先輩方に感謝しながら継承することが使命です。

町内製造業者は、各社の独自技術を社会に提供して報酬を頂戴している訳ですが、報酬は会社の評価でもあります。客先メーカー様からは富士見企業に評価もしており特に遠方のお客様は富士見町の景観や環境を絶賛しています。



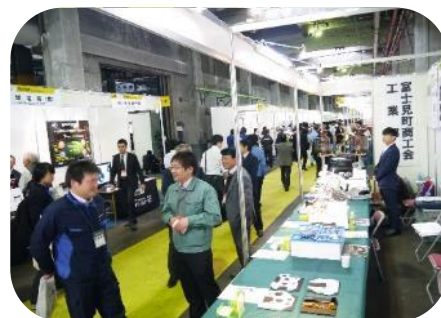
このことは町内工業部の特権であり、日本の中心から世界に発信出来る企業づくりをする為に、より多くのお客様と出会えるよう展示会に出かけています。

今後の富士見商工会工業部会の方向性は、町内企業のコラボで富士見町オリジナル商品づくり・事業継承を目的として若手経営者の育成と企業の繋がりを深める為に、ものづくり若手塾を創設しました。将来を担う若手に、工業部会としては自由な発想創出の土台づくりにバックアップ

をして行きながら、ものづくりの楽しさや社会貢献の意味を継承していきたいと考えています。そのスタートとして、スコップ三味線トロフィーやハロウィンスイーツコンテストの盾など若手塾生が設計から完成まで作り上げたものづくり作品になります。

塾生たちは心躍るものづくりをして感動と満足感があり、これこそがものづくりの原点だと気付いたようです。これからも塾生の和と傑作が生まれてくるに違いありません。

今後、益々の富士見町工業部会にご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。



工業部会長 北原 洋一

建設部会 地域を支える建設業

昨年 5 月に新体制となり、地域を支え守っている建設業が、富士見町で健全に存続していくためには、建設部会で何ができるのか、その都度役員会を開きまじめに検討して参りました。

専門技能職の不足や技術者の高齢化が深刻になるなか、①次の技能・技術を担う若者及び人材の確保 ②安定的な公共事業の確保 ③会員企業の交流と連携の強化 ④働き方改革（週休 2 日）が主なテーマとなりました。



そのなかでまず、町内の若者たちに地元建設業を知ってもらう取り組みとして、OKKOH ブースイベントにはじめて出店し、高所作業車体験の場を設けてみました。ミニバックホウの乗車体験とタイヤアップした効果もあり、たくさんの子供や親御さんが乗車し、上空から OKKOH 会場や完成したばかりのゆめひろばを眺めてもらい、大盛況のうち終わることができました。しかし、一方で高校生の現場見学や現場体験ができる活動の必要性を感じました。さらに、高校在学中に建設業の資格取得ができるように、何かサポートできないことがないのか、また、地方に住む若者とどのように接点をもち、どうしたら不安や悩みを理解することができるのかといった課題もみえてきました。



10 月 13 日には、商業部会から熱烈なラブコールを受けて、はじめて建設部会で縄文ハロウィンに協力体制をとることになり、仮設ステージの設営と顔出しパネルの製作に取り組みました。建設業と違って、地域の人と仲良くなっても仕事なんてもらえないんじゃないのかと思いきや、商店街は、住民を結びつける地域コミュニティーの中核になることができると改めて感じました。建設部会員としては、いろいろなまちづくりの会議に参加し、住民や各種団体と話し合い、ハード面でこんなことができますといった提案をしていくことが必要であると思いました。

11 月 11 日・12 日には、東京オリンピック施設の視察研修がありました。これは、建設部会による恒例の町外視察になっています。この視察研修のもつ非日常性は、普段考えることのないことを考えるきっかけを与えてくれる貴重な機会になっています。自分の住んでいる地域の問題点に気づくことがあります。いま、富士見町では製造業が盛んに工場を増設して町の雇用を担っています。若者が足りない中、若者が建設業から製造業へ流れて異業種間での競合が激しくなってきました。

建設部会長になり、まさかこんなにアウトプットする年になるとは思ってもみませんでした。まだまだ、修業が足りませんが、会員の皆様に少しでもお役に立てますよう、役員と一緒に取り組んで参ります。引き続き、よろしくお願い致します。



建設部会長 窪田 順一

商業部会 商業の地域の顔として

役員改正により理事が一新された今季の商業部会の役員会は、毎回熱い討論で長時間となり、それに伴う会議の回数も際限なく増えていきます。新任理事ばかりの運営は手探り状態であり、関係者の皆様にはご迷惑をお掛けしていることと存じますが、しかしそれを補って余りあるエネルギーがありアイディアに溢れています。我々商業は町民や観光客にとっての顔であり、商業の活気が建設や工業へと波及していく部分も多くあると考えます。その為にも様々な商工会活動が、商工会会員に数字として反映することが最終目的です。また誰もがわかりやすいコンセプトを作り上げることが有効との考えを持って町外へのアピールを積極的に行い、それによる外からの刺激で観光客やiターン・uターンの増加として町内業者や町全体の活気を作っていく活動を行っていきたいと考えております。



① 昨年春、諏訪地域から甲府までの市町村の縄文文化が日本遺産に認定されました。識者の著書でも

「ハケ岳は縄文中期の銀座だった!!」「信州を含んだ縄文中期の文化を井戸尻文化と呼ぶ!」など地元の私たちでも知らない魅力がある “縄文の町富士見”をコンセプトとして、縄文ハロウィンや縄文文化を学ぶ講演会などのイベントをはじめとする様々な取り組みによって、町民及び町外へ積極的にアピールしていきます。同時に町内商店の皆さんに縄文時代に主食とされた“栗と胡桃”を使ったフードやスイーツを創造・商品化してもらうことにより、いっそうそのコンセプトを強力なものにして活動も始めています。これらの活動が将来実を結び、子供たちをはじめ、町民にとって“富士見の縄文”が誇りとなっていくことを目指します。



② 富士見町には町外の方が羨む多くの自然

や富士見高原リゾートや富士見パノラマリゾート、今春オープン予定のカゴメ野菜生活ファームや井戸尻考古館などの魅力的な観光資源が存在します。更にもしかしたら近い



将来、現存する農業者とその施設も観光として大きな魅力

を持っていくことなるかもしれません。これら魅力的なコンテンツと商店街や各飲食店などを線として結び、より一層魅力的なエリアとして形成されるその方法を模索したいと考えております。商業部会は上記の2つを中心とし、広く意見を頂きながら取り組んでまいりますので、今後のご協力と富士見の魅力の宣伝活



動にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

商業部会長 遠藤 敏隆

女性部の活動によせて

女性部の活動は5月からの駅前ミニ公園の環境美化から始まりました。来町される観光客の方に気持ち良く旅をして頂けるよう駅周辺の美化に心掛けた奉仕活動です。公園花壇で、町の花すずらんの香りを楽しんで頂けたら嬉しいですね。

地域活性化事業である夏の「OKKOH 祭り」と秋の「縄文ハロウィン」イベントでは“女性部横丁”を設営しブース出店で祭りを盛り上げました。始祖女神像をモチーフにした「始祖ちゃんクッキー」は古の風を感じる魅惑の味と容姿。数量限定のクッキーはあっという間に完売でした。皆様ありがとうございました。



会員の資質向上を目的とする研修旅行では、東海地方で発展して来た地域伝承の技「絞り染」を伝える「有松鳴海絞会館」を訪ね絞り体験とその歴史を勉強して来ました。江戸時代より伝わる絞りの巧みな技は、地域の女性達が生活の中から生み出した工芸技術。歴史的、工業的に価値が認められ町の財産として守り伝えられているものだそうです。年齢的にも私達とさほど変わらぬ女性達が文化を伝承し地域興しに活躍する姿を見ると、こうして次の時代に伝え行く財産があることにうらやましさを感じます。

富士見町の宝は何か？八ヶ岳を臨む自然、西山の湧水資源、日本遺産に認定された縄文文化等、これらを改めて見直し地元の財産として育てて行く活動が出来たら良いですね。女性部も地域創生活動の一助になれるよう会員さん共々頑張りたいと思います。

原稿をしたためる今、平成の時代を終える 2018 年の暮れを迎えています。先日、新年を迎える迎春の花飾りを中山植物園さんよりご指導頂きました。

四季のしつらえに気遣える女性であること心豊かに暮らすことにこれからも女性部の活動を活かして行きたいと思います。



女性部長 牛山 由実子

＜青年部コーナー＞

今年度、10年ぶりに『どろんこバレー』を復活させました。

『どろんこバレー』とは休耕田を利用し田んぼでバレーボールを行うイベントで、10年前までは町消防団の分団長経験者のOB会「英会」が主催し盛況だったイベントです。当時参加した現青年部部長や部員が「あの楽しさをみんなに味わって貰いたい」と復活を提案し、英会の協力を得て再開を実現させることが出来ました。

しかしながら、計画当初は再開を実現出来るか非常に不安でした。その理由は、10年前開催していた場所が畑になっており、開催場所から探さなければならなかったからです。2月から役場や知人へ休耕田について聞き込みを行いましたが高なかなか開催可能条件を満たす場所が見つからず、手をこまねいている状況が5月まで続きました。漸く見つかったものの、休耕田とは言え田んぼの田の時も想像できないぐらいの雑草の生い茂りっぷり。ただ、ここからが青年部の本領を發揮したと言えるところだと感じました。どろんこバレーは私が所属するふるさと交流委員会が音頭を任されていたのですが、交流委員だけでは人手が足りないと感じてくれた他委員会の部員も草刈りを手伝ってくれました。また、機械が必要となる田おこしや畦塗り、代掻きなどのスケジュールについて、田んぼの知識のない私に代わって立ててくれたりと、一つの目的に向かって一人一人が持つ歯車ががっちり噛み合い動いているのを感じました。

おかげでどろんこバレーは大盛況で、来年も出るよと多くの方からお声を掛けて頂きました。これからも町民の方々に楽しんで頂けるよう青年部一丸となって邁進していきます。



ふるさと交流委員会副委員長 熊谷 奨